

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年3月25日

社会福祉法人森友会
きらめきの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H0702077	☒ 福祉	☒ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	きらめきの森保育園			
事業所連絡先	〒	190-0032		
	所在地	東京都立川市上砂町5丁目85番地1		
	TEL	042-537-7736		
事業所代表者氏名	高橋 和徳			
契約日	2023 年	7 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2023 年	11 月	6 日	
利用者調査結果報告日	2024 年	2 月	1 日	
自己評価の調査票配布日	2023 年	11 月	6 日	
自己評価結果報告日	2024 年	2 月	1 日	
訪問調査日	2024 年	2 月	7 日	
評価合議日	2024 年	2 月	7 日	
コメント (利用者調査・事業評価の 工夫点、補助者・専門家等 の活用、第三者性確保の ための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・「心身の調和的発達」を促す保育 すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 ・「基本的生活習慣」の育成を進める保育 すべての子どもが、無理なく自立の道を歩む。 ・集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 すべての子どもが、協力・共同の喜びを知る。 ・「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味・関心」を育てる保育 すべての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育 すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 子どもを尊厳のある人間としてきちんと向き合える人、いつもやさしい笑顔で子どもに無限の愛を与え、見守っていける人、そして子どものために自分を磨き、子どもたちとともに成長し続けることのできる人。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 子どもと視線を合わせ、言葉を交わし、誉めることで、子どもが自信と好奇心を育む応援をしたいという思いを大切に専門性を持って子どもと接し、保護者と良好な関係を築けること、また、地域との繋がりや未就学児、将来の子どものこととも考えられる職員になることを期待。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯67(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	79
利用者家族総数(世帯)	67
共通評価項目による調査対象者数	67
共通評価項目による調査の有効回答者数	42
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	62.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」28.6%・「満足」50.0%の計78.6%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「保護者に配慮した行事日程」など、全17問中8問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「異年齢で同じ部屋にいたため、いろんなことをまねてやりたがったり、興味を持つ機会が多く、担任制ではないのでフロアの先生全員が子どもを気にかけてくれている」「先生方が子どもにも親にもとても優しく、できないことがあっても否定せず、一緒に方法を考えて寄り添ってくれ、安心して話せ、持ち物やアプリの活用など親の負担も減らしてくれる」「子どもが自由に遊びを選択し、部屋の環境設定もよく、乳幼児の関わりがいつでもできるのはよいことだと思う」「働く親にも配慮した運営で、持ち物や預かる時間等も柔軟な対応で、若い先生ならではの考えが子どもにはいいのかなと思うことも多々あり、ベテランの先生もいるので相談ごとなども心配していない」「先生方がフレンドリーで、楽しく話ができる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見として複数見られたのは、保育や行事、保護者の就労・負担への配慮、感染症対策に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	6	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。自由意見は12件で、「日々保育園でさまざまな刺激をもらい、楽しんで通っている」「友達や教具から刺激を受けているようで、先生方が優しく、一人ひとりに目を配って接してくれているのがとてもありがたい」「家では話したことのない言葉を覚えてきたり、手遊び歌やダンスなども保育園では楽しんでいるようだ」などのほか、日頃の活動内容等について、さらなる充実を望む声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	34	7	0	1
「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が17.1%となっている。自由意見は7件で、「いろいろな玩具があり活動もさまざまで、好きな遊びがたくさんできていると思う」「玩具や絵本がたくさんあり、制作活動や外遊びなど、遊びの中にもいろいろな選択肢があり、どんな活動が好きか、どんなことに興味があるのかを広い範囲で知ることができる」「教具が頻繁に入れ替わったり、活動の前に導入で興味をひくような工夫をしているのがわかる」「公園や散歩、教具など、とても興味・関心をもって楽しんでいる」などの声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	37	5	0	0
「はい」が88.1%、「どちらともいえない」が11.9%となっている。自由意見は7件で、「優しい味つけで、野菜もたくさん使っており、バランスも整っている」「家ではあまり食べないご飯も完食するくらい園では食べているようで、とても工夫されているのだと思う」「いつもおいしいそうなお飯やおやつで子どもも楽しみにしており、低年齢では食形態の工夫もされており、とてもよい」「新しいステップへの移行も、家で試してから園でも移行してくれ、安心だ」「偏食があり、別で用意してくれる配慮をしてくれている」などの声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	25	14	3	0
「はい」が59.5%、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が7.1%となっている。 自由意見は7件で、「設けられていると思う」「サーカスが近くに来た時は観に行くなど、年間行事とは別に行事として採り入れていたこととはよいと思う」「工夫してくれている」のほか、戸外活動や行事のさらなる充実を望む声が寄せられている				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	32	5	0	5
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が13.5%となっている。 自由意見は4件で、「突然の勤務変更にも嫌な顔せず対応してくれ、感謝している」「柔軟に対応してくれる」「いつも世話になっている」などのほか、受付時の対応・接遇や職員間の情報共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	28	13	1	0
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が31.0%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は7件で、「食べ物もリスクのあるものは提供しないなど、リスク管理は徹底していると思う」「鍵のオートロック番号がほとんど毎月変わり、安全だ」「コロナ禍でもパーティションで区切ってご飯を食べたり、職員がマスクを着用したり、感染対策に取り組んでい たと思え、ケガに関してはあまりないので、安全対策しているのだと思う」のほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、換気等につ いて、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	4	1	0
「はい」が88.1%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は6件で、「年間予定表が配られるので予定は立てやすい」「土曜にあり、非常に助かる」「行事が多過ぎず、土曜日にやっ てくれるので参加しやすい」「行事もたくさんあるわけではなく、参加しやすい」などのほか、行事の日程の設定、日程等の連絡などにお ける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	32	7	3	0
「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が7.1%となっている。 自由意見は9件で、「連絡帳でちょっと質問したことも口頭でしっかり説明してもらえるので、詳しく話が聞けて助かる」「心配ごとを相談 すると日中の様子を教えてくれたり、一緒に見ていきましようと言ってくれ、いつも相談しやすい」「どの職員もお迎えの際など気軽に話 しかけてくれ、些細な悩み等も話せる」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告、コミュニケーション機会の確保などにつ いて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	4	2	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は2件で、「保育室内に入ることができないので全体的に見られず、どちらともいえない」のほか、清掃・衛生管理について、 さらなる配慮を望む声があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	11	1	0
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は8件で、「保育に支障がなければ、どんな格好でもいいと思う」のほか、職員の保護者・子どもへの言葉遣いや挨拶、接 遇、服装・身だしなみなどについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	8	2	0
「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は4件で、「早お迎え以外の体調不良でも細かく連絡してくれるので、体調の把握ができ、仕事の調節もできるので助かる」「ちょっとしたケガでも、どういった状況で起きたのか説明してもらえるので安心できる」のほか、ケガや体調変化等の対応、保護者への連絡・伝達、プライバシーへの配慮などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	11	1	7
「はい」が65.7%、「どちらともいえない」が31.4%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は7件で、「子ども同士のトラブルで相談した時、他の職員とも連携を取り、すぐに対応してくれた」「『〇〇さんとけんかして、こういう風にお話ししておきました』など具体的に教えてくれるので、とても安心している」「大きなトラブルになったことがなく、普段の様子を見たことがないのでわからない」などのほか、トラブル発生時の保護者への報告・説明、保育者の子どもへの関わりなどについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	5	1	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は2件で、「とてもよく見てくれている先生や、お迎えの時今日あったことを詳しく話してくれる先生がいる」との声のほか、保育者の子ども一人ひとりへの関わりや目配り、保護者との情報共有などについて、さらなる配慮を望む内容が見られている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	35	5	0	2
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%となっている。 自由意見には、「そういったことがないのでわからない」の1件があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	29	11	2	0
「はい」が69.0%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は5件で、「個人面談の時の説明はわかりやすかった」「若い先生が一生懸命しているのを見ると応援したくなる」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有などについて、さらなる工夫を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	30	10	1	1
「はい」が73.2%、「どちらともいえない」が24.4%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は4件で、「子どもが健診で指摘されたことを日々の保育の中でも保育士に確認してもらおうようお願いし、何か異常があれば伝えてもらったので助かった」「上席の先生に気になることを話した時に、組織内でその件を共有してくれたようで、気にかけてくれたんだと安心できた」のほか、保護者の不満・要望等への対応やそれらの伝えやすさについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	21	12	5	4
「はい」が55.3%、「どちらともいえない」が31.6%、「いいえ」が13.2%となっている。 自由意見は3件で、「入園時や、年度初めには説明があったと思う」「相談できるところがあるのは知っているが、どうやって相談するのかはわからない」のほか、外部の意見窓口の周知について、さらなる配慮を望む声があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ☐非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ☐非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人共通の保育の理念・方針等について、保護者や職員への周知に取り組んでいる 保育の基本理念「すべての子どもの最善の利益のために」、心身の調和的発達と基本的な生活習慣の育成、集団への参加と自主協調の態度の養いなどの保育の方針を法人全園で掲げ、「誓める」ことを大切にしたり関わりや異年齢の育ち合い、それらを通じた一人ひとりの主体性の伸長などを、保育実践の柱としている。保護者にはこれらを、見学・入園時の説明のほか、毎月の園・フロア便りや保護者会等での子どもたちの育ちの発信などにより、共通理解の獲得を図り、職員には入職時の研修や常勤者の年2回の自己評価などを通じ、理解と実践を促している。	
	経営層による運営の統括のもとで、子どもや家庭の多様な特性への支援に取り組んでいる 職務分掌表に経営層を含む各職位・職種の職務内容を一覧化し、園長・主任・副主任及び各フロアリーダーがそれぞれの職責を踏まえ、経営層として園の運営や現場の保育の統括にあたるとともに、日々の業務場面での職員への指導や、会議等での園・法人の各種方針の発信を行っている。また組織の年間のテーマを「笑顔」とし、主任を中心に現場に発信して職員に励行を促している。子どもの発達や家庭の育児環境が多様な地域性を踏まえ、個別の支援に組織全体で注力している。	
	会議の仕組みを整えて必要な事柄を検討・決定し、組織内及び保護者に周知させている 常勤者と出席可能な非常勤者が集う職員会議と、経営層によるリーダー会議をそれぞれ毎月設け、園の運営全般に関する検討・決定は、案件に応じて主にこれらの場で行っている。また保育の実務的な会議として、0・1歳児担当及び2歳以上児担当の各フロア会議を毎月行い、話し合われた内容を職員会議やリーダー会議で共有し、必要な検討に活かす仕組みとしている。各会議の議事内容や決定事項等は、各議事録や毎日の朝礼などを通じ、不参加者を含む組織全体に周知され、保護者には概ねアプリでの配信により、各種の重要な連絡事項が伝達されている。	

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

法人の中・長期的な事業方針のもとで、年度の園の運営と各種業務の計画を作成している

法人の「中長期・短期事業計画」に、法人及び事業環境の現状を踏まえた「最重点課題」と取組事項、目標水準や達成の時期が列挙されている。また同計画も念頭に、園の年度の事業計画に、園及び組織の運営、保育・食事・安全・保健衛生及び人材育成・保護者支援、設備の修繕等について、年間の取組や方針を定めている。事業計画中の保育その他の現場の日常業務については、具体的な取組内容、目標・ねらい等を示す年間及び各期間の計画を、分野ごとに立案し、内容や期間に応じた進捗確認のもとで実行するとともに、実施後に反省を行っている。

保護者や職員の意向を多様な方法で把握し、現場の主体性の促進にも取り組んでいる

上述の各種業務に関する計画を中心に、計画作成において参考とすべき情報の収集を行っている。保護者の意向を、全体としては保護者会での傾聴や行事後の感想収集、個別には日々のコミュニケーションや面談等を通じて把握し、職員の意向は前述の各会議や年間複数回設ける園長との面談、日常の業務内外の会話などから把握している。園運営を現場主体で行うことを旨とし、園便り「きらめきだより」には経営層が持ち回りでコラムをつづり、日々の保育は主任・副主任及び各フロアリーダーが中核を担うなど、職員への権限移譲を積極的に行っている。

地域の状況や行政・業界の動向の把握と、園の経営状況の管理の仕組みを整えている

地域の教育・保育や子育て等の傾向・ニーズは、見学等で来園する未就園世帯や在園世帯の声、参画する地域内のネットワーク会議や、年3回程度開かれる市の法人立園長会などから把握している。また第三者委員を委嘱する地元の自治会長との情報交換も折々になされている。関連する行政の各種政策・制度の動向や業界内の話題は、左記の市の園長会や法人内の系列園園長会、自治体・法人の発信物などから把握している。園の予算の策定や収支・稼働率などの経営状況の管理や主に園長が担い、法人内の園長会で毎月の状況を法人や系列各園と共有している。

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
保育に携わる者としての種々の規範・倫理について、職員にさまざまな啓発を行っている 新入職員には就業規則上の各種服務規律をはじめ、法人の職員・保育者としての規範・倫理に関する啓発がなされている。また入職後には常勤者が毎年度「振り返りシート」により、園長・副園長は統率者・管理者としての姿勢・態度、一般職員は保育者・職業人としての基本的な能力・行動や、法人の理念・方針等を踏まえた保育実践面の規範の実践について、自己評価を行っている。6月の職員会議では不適切な保育について話し合い、子どもの人権や尊厳に配慮した言動の徹底を確認するほか、その他の会議や朝礼でも、報道等をもとに自戒が促されている。 園と家庭での虐待等の防止や、保護者の意見・要望等への適切な対応に努めている 職員の子どもへの虐待的言動を防ぐための取組として、全職員が法人共通の「虐待チェック」により、子どもの心情や尊厳を顧慮しない言動を現場で行っていないか、各人が自身を振り返っている。また法人の「虐待防止マニュアル」を常備し、家庭での虐待等が懸念される事案には、各行政機関との連携のもとで、関係職員間で情報を共有して支援にあたっている。苦情解決制度の整備と保護者への周知、玄関への「ご意見箱」の設置や、日々の会話・連絡帳アプリ等、保護者の意向を把握する仕組みを整え、個別の継続的な対話など、誠実な対応にも努めている。 地域に対し、透明性確保や関係機関との連携、実施可能な貢献に取り組んでいる ホームページや立川市の各種媒体を通じた情報発信や、実習生・職場体験生の受け入れを行い、ホームページには当園を含む法人各園の保育と組織運営の各項目に関する自己評価が毎年度掲載されるなど、透明性の確保に取り組んでいる。また市の法人立保育所園長会や、地域ごとに保育・教育施設や民生児童委員・児童相談所等が参集する子ども支援ネットワークにも参画し、地域内の共通課題の検討などに加わっている。見学で来園する未就園世帯には育児相談にも応じるほか、園長が近隣の小学校の運営委員を受嘱するなど、地域への貢献にも取り組んでいる。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
不審者や災害への備え、BCPの整備など、各種のリスク対策に取り組んでいる 不審者への対策に注力しており、園内への侵入に備え、敷地内の要所の防犯カメラによる常時監視のほか、年2回の「防犯訓練週間」では、さまざまな状況を想定した訓練をそれぞれ複数日を設定して実施している。今後は園外活動中の遭遇リスクも想定に加えることを検討されたい。また毎月の避難訓練により、地震・火災時の対応や保護者への子どもの引き渡し手順等を確認するほか、不審物発見時の対応に関する訓練も実施している。災害・感染症の発生を想定した各BCPも整備し、作成以降の新入職者の加入にも鑑み、さらなる周知の取組も期待される。 園内の周期的な点検や、安全に関わる種々の事例の共有と検証にも取り組んでいる 園舎内の安全点検を毎日、園庭その他の敷地内の要所の破損状況等の確認を毎月行うほか、子どものケガをはじめとする事故の発生時には、事例の軽重に応じ、全体またはフロア内での周知や原因・防止対策の考察・検討を行い、安全の向上に活かすとともに、看護師が事例を集計し、発生の傾向をもとに職員会議で注意喚起を行っている。また誤食未遂などのヒヤリハット事例についても、検証と事故防止対策の検討を行っている。法人が「安全レポート」として随時発信する系列各園の事例についても、回覧によって各職員に共有と現場での注意を促している。 各種情報の取り扱いと漏洩防止について、規程等と仕組み・環境の整備がなされている 個人情報及び文書の管理・利用、開示・訂正等の請求への対応などについて、法人が関連の各規程やマニュアルを整備し、職員には入職時などに関連の啓発がなされ、実習生・職場体験生等には活動開始前に守秘義務の厳守を求めるとなっている。また重要書類の施錠管理、情報端末・ソフトウェア類のログイン制限など、情報漏洩を防ぐ措置をさまざまに講じるほか、保護者には入園時に、各種情報の利用目的などに関する説明と同意確認を行っている。法人内のグループウェアによる各園園長・副園長間の情報共有など、情報の利活用推進にも取り組んでいる。		

5 職員と組織の能力向上		カテゴリ-5	
サブカテゴリ-1 (5-1)		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	
カテゴリー5の講評 人材の確保と目指す保育に必要な人員配置に努め、労働環境面の諸整備もなされている 職員の募集・採用は、法人内の担当委員会を中心に、系列全園について包括的に行い、法人サイトや各種SNS、養成校・関連業者、在職者への人材紹介奨励など、多様なルート・媒体による人材確保に努めている。配属・異動は法人の人事委員会が各園の状況を踏まえて行い、園内の保育者の配置は、園長・主任が各リーダーを交えて話し合い、各階の子どもの状況や各人の意向、チームとしての関係性や経験等のバランス、進級後の保育の安定継続などを考慮して決定している。就業状況の管理やストレスチェックなど、労働環境面の各種整備もなされている。 職員のキャリア形成と成長の段階的な指標と、個別の評価・育成の仕組みを整備している 「職員のキャリアプランについて」に、職員の入職後のキャリア形成の道筋と、各段階の研鑽や経験年数などの目安を図示し、人材育成及び園・法人内の研修やOJTの概要を事業計画や「教育研修計画」に定めている。また一般職員と園長・副園長の各階層で、法人策定の「振り返りシート」による個別の自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行うほか、同シートと共通の管理職者による評価を、人事や処遇の参考として、各人の意欲の向上を促している。評価は園長が面談を通じて各人と共有し、必要な啓発や助言を行っている。 法人内の研鑽の場が多様に設けられ、園内での現場主体の改善活動もなされている 国のキャリアアップ研修や自治体・各種団体の種々の研修の受講により、各職員の専門性の向上を促すほか、当園を含む法人内の各園を職員が往来し、法人の保育の柱とする「誉める」保育について、現場の視察と話し合いにより、知見と技術を高める研修が年間を通じて行われている。また中堅・リーダー層向けの研修、法人の主任会を中心とする新人・若手育成、指導者来園によるオペレッタの研鑽など、多様な内部研鑽の機会が設けられている。会議での話し合いや安全・保健衛生をはじめとする委員会活動など、職員主体の課題解決もさまざまになされている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1) 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 保護者の事情等で支援を要する家庭には、状況に応じ行政や関係機関とも連携して対応にあたっているが、昨年度も同様に取組を行った。とりわけ主張の強い特定の保護者に対し、個別に相談対応等にあたるとともに、玄関先でのクレーム対応の場面を目にする他の保護者や子どもが不安を感じることはないよう配慮するほか、現場の職員の疲弊の抑制にも心を砕いた。園長が主に対応を担い、最終責任を負うことを周知させるとともに、不在時の経営層間の連携などを、職員会議や個別の引き継ぎなどを通じて折々に伝えた。また当該家庭には市の担当課長が園長とともに対応にあたると、行政の協力も得たが、子ども家庭支援センター・児童相談所には積極的な支援を得ることができず、苦慮するところもあった。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 今年度も同様に要支援・要配慮の家庭への対応にあたっている。ケースによっては警察署との連携が生じることもあり、現場の負担も少なくないが、市担当課以外の機関の対応状況は依然として芳しくなく、支援に限界が生じることもある。また現場の負担も避けがたく生じており、職員の疲弊を抑制するため、園長や主任が個別に支援を行っている。人的体制の充実や法人本部のフォローアップなど、現場のストレスを抑えるための支援を、園長が法人に継続的に要請しているところである。今後の経営層の体制の変動も想定し、引き続き各家庭に寄り添った支援と法人への働きかけを、並行して行ってゆく意向である。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は業務改善による残業時間の縮減と業務負担感の軽減を図ることに注力した。離職防止や求人活動への好影響も考慮し、現場の負担を可能な限り抑制し、より働きやすい職場環境とすることを目指した。
一昨年度の現園長の着任後、行事の装飾・小道具や各室の手作り玩具など、種々の作製物の縮減を継続的に指示するとともに、体制の状況に応じ、非常勤者にも保育日誌への記録を依頼するなど、現場の業務負担の抑制を意識した取組をさまざまに行っている。これらに加え、昨年度は残業に関するルールを明確化し、いわゆるサービス残業の禁止と、残業を行う場合の上長への事前申請の徹底について、職員会議で通達した。また現場を離れて事務業務等のデスクワークに専念できる、いわゆるノンコンタクトタイムの確保を図り、毎日の体制の状況に応じ、実施を随時働きかけた。
さらに組織内に「業務改善委員会」を設置し、経営層とサブリーダーが担当となり、準備に時間を費やしていた運動会の開催方法の簡素化など、業務の見直しと効率化を図った。

目標の設定と
取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

経営層は、一連の取組を通じ、残業や負担が生じがちな業務を、現場が実感として理解し、それらに対する改善策を練ることができたと考えている。
今年度も引き続き注力し、制作物等の準備の頻度を減らすとともに、行事の見直しと効率化を図っている。運動会「もりんぴっく」では、昨年度はフロアごと、0・1歳児と2歳以上児でそれぞれ行っていたが、今年度は2歳児までの参加をなくし、代替の機会を検討することとした。当初は0・1歳児の参加をなくすこととしていたが、その後現場から2歳児についても参加の必要性や意義について意見があり、検討のうえ、前述の開催形態とすることとなった。0・1歳と2歳児には、オペレッタに運動会の種目のような要素を持つ内容を盛り込むことで、同様の経験の保障につなげることにしている。また3歳以上児についても、装飾等の作製物はすべて既製品の購入としてよい旨、5月の職員会議で園長が通達するほか、その他の行事でも、職員間の検討のもとで、複数クラスの集合による実施から適宜の分散形態に改め、時間も短縮するなど、業務負担の抑制による働きやすさの向上に努めている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
保育理念・方針や特色的な保育の内容など、ホームページを通じて発信している 法人のホームページでは、「好きを見つけられる子へ」という象徴的なメッセージとともに、保育理念・方針や、法人で大切にする「育める保育」や異年齢保育、子どもの主体性の尊重などを写真を添えて紹介している。また子どもの育ちや保育者の思い、保育実践の具体的な内容を示したオリジナルの「コンセプトブック」や、その一端を紹介した動画も公開されている。各園のページでは、保育時間や定員などの園の概要、園へのアクセスマップのほか、0・1歳児と2歳以上児の一日の園での生活の流れと内容、年間の行事予定などの情報が掲載されている。			
市との連携のもとで、地域の方に園に関連するさまざまな情報提供を行っている 市と園との連携を図っており、各種媒体を通じた情報発信をしている。市のホームページには、市内各園の所在地・電話番号・利用時間、保育実施年齢と、園のサイトへのリンクなどが掲載されるほか、各園の定員別の募集人数の状況が随時公開されている。園のページも設けられており、当園の理念・方針・目標と、保育の内容・特色のほか、園の概要や年間行事などが掲載されている。なお、前述の「コンセプトブック」に加え、写真を添えて園の特色等を紹介したり、入園希望者のよくある質問と回答を載せた園のパンフレットを準備し、見学者に配付している。			
園見学を受け入れており、保育の方針や特色を伝えつつ、質問等にも答えている 園見学は子どもたちの主活動が始まる10時頃を勧めているが、午後のおやつ後の状況も可能とし、園と利用希望者の都合を踏まえて随時調整している。当日は、0・1歳児と2歳以上児でのフロアごとの異年齢保育、子どもの主体性を尊重した保育、担任でなくチームとしてフロア担当が見守ることといった保育の方針のほか、自由に取り組める描画等の表現活動、外部講師による英語レッスン、園庭がなく、隣接する公園を活用していることなどを丁寧に説明している。また保護者の求める質問に答え、入園のイメージが持てるよう配慮している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
保護者に対して、利用開始にあたっての重要事項の説明と同意確認を行っている 入園内定者には説明会を行っている。「園のしおり」をもとに園長・主任・看護師が分担し、園の理念・方針や保育時間等の概要、「誉める保育」や異年齢保育、コーナー保育・表現活動といった保育の特色を説明するほか、登園前の健康管理、発熱等の対応や感染症の登園基準などの保健に関する事項を伝えている。また個別の面談と質疑応答を行ったうえで、重要事項や個人情報の同意確認をしている。なお、「園のしおり」を事前に渡し、内容を見てもらえるようにするほか、在園児は個別の面談で必要事項を伝えるなど負担軽減に配慮している。			
入園時の子どもの成育歴や健康面の情報収集と、利用終了時の不安軽減の配慮をしている 入園時の面談では、保護者が記入した各書類をもとに、食事・睡眠・排せつなどの状況や家庭での生活リズム、既往歴や健康状態のほか、各家庭の要望や保護者の方針等を聴き取っている。年齢によって離乳食など食事に関わる説明と個別の状況の聴き取りを行うほか、食物アレルギー等の個別配慮が必要な場合は看護師等が面談して詳細な状況を確認し、入園後の個別の配慮に活かしている。把握した情報については、ノートや会議などで組織内で共有を図っている。その他、卒園等の利用終了時には送迎時の会話や面談などで不安軽減に配慮している。			
子どもと保護者が安心できるよう、入園直後の柔軟な配慮と細やかな支援に努めている 入園直後の子どもの不安軽減のため、保護者の復帰時期や子どもの状況を踏まえ、2週間程度を目安として慣らし保育の日程を決めている。開始後は特に保護者とのコミュニケーションを図り、子どもの様子を伝えつつ、日程の変更にも柔軟に対応しており、保育時間を徐々に延ばしつつ、食事・睡眠などの経験を重ねながら、通常の保育時間へと移行している。子どもたちが泣いている時には求めに応じた関わりをしながら職員との関係を作るほか、家庭での様子や好きな遊び等を聞いたりして、その子が親しめる環境を整えたりして、遊びに迎えるようにしている。			

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの成長・発達を定期的に記録し援助に活かしている

入園時に子どもの成長・発達に関する情報を取得するほか、その後も情報を更新し、日々の保育及び個別の支援に役立てている。身長・体重の測定や内科健診・歯科検診にて发育や健康状態を確認し、保護者との情報共有を図っている。心身の発達状況については、年齢別の発達の現れを、リストを用いて確認し、全体的な子どもの姿や具体的なエピソードは記述形式で記録している。発達の現れに関するリストは標準的な発達段階を示すものであり、個人差があることを踏まえ、未達の項目がある場合には、発現・獲得までの丁寧な援助を心がけている。

全体的な計画をもとに長期・短期の計画を作成し、実践につなげている

全体的な計画をもとに、年齢別の年間を4期に分けた長期的な保育計画を策定し、年間目標・ねらい・期ごとの子どもの姿や領域別の予想される姿のほか、異年齢保育や保護者支援等について、育ちの目安や支援の考え方などを記載している。0・1歳児は月間・週間の短期的計画に、2歳以上児は週間の実践的な計画に展開している。各計画は周期ごとに振り返りを行い、次の計画につなげてゆく仕組みとしている。保育計画のほかにも、行事や保健指導を実施する際の行事計画書、食育計画書も作成している。

個人別の計画を援助に活かし、保育内容や子どもの様子を保護者に伝えている

集団としての計画だけでなく、心身の発達が著しく、個人差に応じた細やかな援助を必要とする0～2歳児までは、個人別の指導計画を作成している。子どもたちの様子は、フロア会議のほか、日々の対話の中で共有し、計画とその実践に活かしている。保育内容や子どもの様子は、年2回実施する「ふれあい保育」において、子どもの成長の様子を写真とともに伝えるほか、3月に実施する保護者会では年間を振り返り、子どもの成長を伝えている。また、個人面談は毎年1回を基本に、必要と希望に応じて随時実施し、子どもの様子を伝え合っている。

サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ5の講評			
子どものプライバシーや羞恥心の芽生えへの配慮、個人情報の保護に努めている プライバシーや羞恥心の芽生えへの配慮に努めており、排せつの援助は、トイレやロッカーの裏側など、他から見えない場所で行うようにしている。排せつの失敗への援助は、自尊心を傷つけないよう、さりげなく他児から見られないよう配慮している。また幼児クラスではプライベートゾーンに関する話を通じて、自分や友達を大切にすることを伝えている。子どもの個人情報の利用や取り扱いに関しては、入園時に保護者に説明したうえで同意の確認をしており、その後外部とやり取りする事項などがあれば、そのつど保護者の同意を得ることとしている。 各家庭の意向や子どもの状況などを把握し、個別の配慮と園全体での見守りを行っている 入園時やその後の面談、日頃のコミュニケーションを通じて、子ども一人ひとりの状況や保護者の意向等を聴き取り、それぞれの個別の支援と配慮につなげるとともに、職員会議で共有を図り、園全体での認識共有と見守りに努めている。また、多様な背景や状況を受け止め、それぞれに応じた個別のフォローや細やかな支援も行っている。虐待防止に関するマニュアルを整えるほか、不適切保育や保護者支援に関する市保育課主催の研修を主任が受講しており、その学びを報告書の回覧にて共有するとともに、内容によって会議にて報告・共有をしている。 子ども一人ひとりの意志や主体性を尊重しながら、法人の目指す保育の実践に努めている 法人の目指す保育として、一人ひとりの意思や主体性、選択の尊重などを大切にしており、子どもたちが誉められ、認められる経験を重ねられるような支援を心がけている。法人マニュアルに保育実践における職員の所作や姿勢、見守りなどが定められるほか、食事・制作等の考え方を「コミュニケーションファイル」に挟み、いつでも確認できるようにしている。また不適切保育の防止の定期的なチェックを実施し、自身の子どもへの言動を振り返るとともに、法人内の「誉める保育研修」での相互の保育を見合う機会を設けるなど、さまざまに取り組んでいる。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
日常の保育や所定の業務内容から危機管理など、運営面で必要な手引きを整えている 法人共通のマニュアルには、職員の心得や保育に関する事項、園外保育や健康・ケガ管理、不適切保育や虐待防止のほか、感染症対応や危機管理などを整備している。園では事務室所管の各種業務、園外活動やおむつ替え・着替え・連絡帳の書き方などの手順、各年齢の保育提供などについて、乳児と幼児のフロアごとでのマニュアルをそれぞれ整備し、各実践箇所に設置して常時活用できるようにしている。また感染症やSIDS、嘔吐物処理やケガ・事故などの対応手順を定めた「保健マニュアル」を全職員に配付し、実務での徹底を促す仕組みとしている。		
保護者や職員の意見、各種の事例などを踏まえ、法人・園の仕組みの見直しを行っている 系列園共通の手引き等は、行政の通知や各園の運営状況などを踏まえ、法人内の専門部会や各委員会などでの検討を経て見直し、変更された内容を各園に展開する仕組みとなっている。園においては、各行事の実施後に保護者のアンケートを実施するとともに、行事担当による評価反省を行い、次年度に向けた課題点を引き継いでいる。また日頃の気づきや提案などは、各種の会議や日々の「コミュニケーションファイル」を通じて把握しており、それを踏まえた検討や見直しも行うほか、他園の事故等の事例があれば、随時周知を図っている。		
安全かつ衛生的な保育提供の実施に向け、さまざまな対策を講じている 日常の保育において、SIDSや食物アレルギー、園外保育等は実施漏れがないようなチェックを行っている。またトイレには嘔吐処理の手順を掲示し、発生時の速やかな対応を誰でもできるようにしている。小児科・耳鼻科・整形外科などを分類し、その一覧とマップをまとめるとともに、感染症の基準や子どもの健康観察のポイント、緊急時の通報手順などと一緒に事務所に常備しており、これを緊急時に活用している。内科・外科の集計をし、発生場所や活動内容の分類、感染症の状況などを踏まえ、職員会議の際に組織内での注意喚起を行っている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている				
評点(〇〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○非該当
評価項目1の講評				
子どもの発達や興味の状況の把握に努め、教具の見直しと入れ替えを行っている 子どもの発達や興味の状態は、職員で園での生活や遊びに向かう姿を伝え合いながら把握しており、子どもを多面的な視点で見て、より望ましい援助や配慮が行えるよう努めている。また家庭での様子については、送迎時の対話や面談を通じて聴き取っている。把握した子どもたちの状況を踏まえた環境構成の工夫に努めており、教具は1～2週間を目安として見直すほか、遊びの広がり促せるよう、新しい教具を提供する際には、大人が取り組む様子を見せることで、子どもたちの興味・関心につなげている。 異年齢の子どもたちの関わりの中で、年齢相互の育ち合いが促されている 0・1歳児と2歳以上児が日々生活と遊びをともにし、戸外遊びや朝夕の保育では全年齢の子どもたちが一緒に過ごしている。年下児は年上児の姿を見て、教えてもらうことで、生活習慣の所作や言葉・遊び、コミュニケーションなどを身に付けている。年上児には関わりを通じて優しい心や自信が育まれており、年下児のことを考えて、伝え方や関わり方を変える姿が見られている。発達の異なる子どもたちの間では理解の違いなどから摩擦が生じることもあり、保育者は双方の気持ちを尊重しつつ、仲立ちや代弁等の援助や年上児の遊びの保障に努めている。 子ども同士のトラブルや特性への援助は、個々の状況に応じて行っている 発達の過程で見られる引っかきやかみつきへの対応では、双方の気持ちや痛みに寄り添いつつ、関わり方を伝えるほか、できる限り未然に防ぐことができるよう、教具の数や種類への工夫、子どもの状況を職員間で共有し、連携を図りながら止められる場所で子どもと関わるなどの配慮に努めている。特別な配慮を必要とする子どもの援助では、できる限り体験が失われないよう、心情を踏まえて子どもの意思を確かめつつ、誘いかけのようにするほか、個々に応じて援助できるよう、関係機関とも連携を図り、職員間で情報を共有している。				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

日々の送迎時に保護者と職員と双方で、子どもに関する情報を伝え合っている

登園時の受け入れの際には、職員が子どもに声をかけ、視診を行いながら健康状況を確認し、保護者から家庭での子どもの機嫌などの様子を聴き取っており、入室前には検温を実施するようにしている。これらの情報は引き継ぎ用のノート等を活用し、フロア内の職員と共有するとともに、日中の様子や変化について追記し、引き渡し時の保護者への漏れのない伝達等につなげている。降園時にはできる限り一人ひとりの子どもの様子を伝えることに努め、連絡帳のやり取りや一日の様子の配信・掲示でも、その日の子どもの様子を知らせている。

子どもの気持ちや意欲を尊重しながら、生活能力の獲得を支援している

子どもの意欲や身体機能の発達を踏まえ、家庭と連携を図りながら、生活能力の獲得を支援しており、無理なく進めることを大切にしている。排せつの自立への援助では、子どもの排尿間隔を記録し、トイレに誘いかけ、成功体験を重ねながら感覚を身につけられるようにしている。衣服の着脱や手洗い、物の管理などの援助では、一緒に行いながらコツを伝え、徐々に見守りの割合を増やすほか、関わる際には自発的な意欲や行動を誉めることを心がけている。また保護者にも園での援助方針を伝え、脱ぎ着しやすい服の用意などの協力を呼びかけている。

一人ひとりの生活リズムや疲れなどに応じ、休息が取れるようにしている

休息は子どもの体力や体調に応じて自由に取れるようにしている。2歳児以上が過ごしている2階のフロアでは、午睡の時間を設定するのではなく、保護者の要望等を踏まえて休息の確保を行うほか、子どもが眠たいと訴えた時には、視覚・聴覚の刺激の少ない場所に寝具を出して寝られるようにするなど、それぞれに応じた支援を行っている。0・1歳児では午前寝や夕寝、食事後に子どもが眠くなる時には、すぐに眠ることができるよう支援している。睡眠時には呼吸・体位等の定期的な確認を行いながら、安全に休息が取れるように配慮している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもたちが自由に好きな遊びを選ぶよう、環境の構成の工夫に取り組んでいる

子どもたちが自由に好きな遊びを選ぶよう、環境の構成の工夫に取り組んでいる。保育室には子どもたちの多様な興味・関心に応えられるよう、さまざまな種類や大きさの構造の遊び、カードゲームやパズル、絵本や図鑑を準備するほか、楽器や音楽プレーヤー、制作活動を行えるような素材や道具などを設置し、子どもが自由に使えるようになっている。ハサミを用いる場合には、保育者がついて安全な使い方伝え、絵の具を出す場合にも、始めの設定を保育者が行うなどの援助を行うほか、表現スペースとして、身体表現を楽しめる空間も確保している。

子どもたちの表現力や感性を育む、室内外のさまざまな活動を行っている

室内ではリズム遊びや講師によるオペレッタに取り組むほか、音楽プレーヤーで音源を流してダンスを踊ったり、楽器に触れたりするなど、音楽表現や身体表現を楽しんでいる。今年度から英語のプログラムも採り入れて、楽しみながら英語に親しんでいる。また季節をテーマにした制作活動、行事の際の共同制作などに取り組み、日々のごっこ遊びなど、なりきりや見立て・再現を楽しむ遊びも行っている。戸外では身体を動かして遊んだり、虫や草花などの探索と採取を楽しんだりするほか、草花や気温などから季節の変化に触れている。

言葉に対する感覚を養い、遊びを通じてルールの大切さに気づけるよう援助している

子どもの発語を促せるよう、状況やものの名前を言葉にして伝え、応答的なやり取りを通じて、ものと名前が一致するように援助している。また手遊びやお名前呼び、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行うほか、絵本を手に取れるようにしたり、幼児クラスでは、仮名文字の表や文字、言葉への興味を促す教具を用意している。カードゲームや鬼ごっこなどを通じて勝ちたい気持ちや負けて悔しい思いのほか、摩擦を繰り返しながら、ルールを守って遊ぶことの大切さや楽しさを知ることができるよう、見守りや仲立ち等の援助に努めている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事が子どもたちの興味や関心の広がりを促し、新たな体験の機会となっている

遠足では4歳児が動物園に出かけ、本物の動物を観察するほか、年長児の「デイキャンプ」では、キャンプ場で川遊びをするなど自然体験を楽しんでいる。年長児のお泊まり保育に替えて取り組んだ「お楽しみ保育」では、カレーの調理やアイス作りを体験している。その他、ハロウィンパーティーでは仮装して駅まで散歩に出かけたり、年末には餅をつく体験をしたりしている。これらの行事は子どもたちの新たな体験の機会となっており、事前に皆で調べたり、保育者が話をしたりする時間を設けるなど、興味を持って主体的に活動できるよう工夫もしている。

行事を通じて子どもたちが協力し、一つのものを作り上げる体験をしている

「もりんぴっく(運動会)」では、普段保育の中で楽しんでいる遊戯、かけっこや親子競技等のほか、年長児では輪くぐりや平均台などを連続して行うサーキット運動、リレーなどに取り組んでいる。リレーは、一つの目標に向かってチームで協力し、勝ち負けを通じて、喜びや悔しさを体験している。「フェスティバル」では、オペレッタを発表しており、自分なりに表現することを楽しみつつ、皆で一つのものを作り上げる体験をしている。また年長児が共同制作に取り組み、当日は子どもたちが作品の紹介と制作する際の工夫についても発表している。

季節や伝統的な文化を感じる行事など、さまざまに取り組んでいる

七夕・月見・餅つき・節分・ひな祭りなどの日本の伝統的な行事では、絵本などで行事の意味や物語を伝えたり、行事の象徴するものをモチーフにした制作に取り組んだりするほか、行事食や遊び・風習などを織り交ぜ、子どもたちが楽しみながら、季節や日本の伝統文化を知る機会にもつながっている。「きらめき祭り」は園内でのごっこ遊びとして、各フロアで提灯や子どもが作った七夕の制作・短冊を室内に飾り、5歳児が法被を着て店番をし、他の年齢の子どもとやり取りを交わし、ボーリングや缶積みなどのゲームを楽しんでいる。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

子どもが休息を取りながら安心して長い保育時間を過ごせるよう配慮している

長い保育時間の中で、子どもがふと休息したり、ゆったりとしたりできるように環境を整えており、睡眠を必要とする際には簡易ベッドを出して、遊びの空間から少し離れた場所で寝られるようにしている。子どもたちの健康状態は登園時の視診や検温などで把握に努め、適宜水分を摂取できる環境を整えるほか、子どもたちの情緒面への配慮に努めており、保護者の帰りを待つうちに寂しくなってしまうたり、気分がすぐれないような場合には、スキンシップを図ったり、1対1でゆっくり話をしたりしている。

子どもたちが自身の興味や体力・体調に応じて一日を過ごしている

子どもたちが保育室内の活動場所を選択できるようにしており、自分の意思で活動を選択することで、子ども自身の興味や体力・体調に応じて一日を過ごしている。朝・夕の保育は、人数や時間帯に応じて1階のフロアで合同保育を行っており、子どもたちが興味・関心を持てるよう、普段置いていない玩具等を出したり、幼児がいつも2階のフロアで楽しんでいるカードゲーム等を提供したりして、それぞれが思い思いに活動ができるようにしている。また18時以降の利用をする場合は補食・夕食を提供している。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもが主体的に食事に向かう環境を整え、援助に努めている

食事を摂るタイミングは、基本11時から13時の間であれば、子ども自身が空腹の具合や遊びの切れ目などを踏まえて、自分で決められるようにしており、訪問調査日にはフロア内に食事が運ばれ、保育者が準備を進めていると、お腹が空いた子どもは手を洗って席について待ち、遊んでいる子どもはそのまま活動が続けるなど、それぞれの選択が保障されている様子が見られた。料理を盛り付ける際には、保育者は子どもと対話して、食べられる量を聴き取るようにしており、子どもが自分のことを自分で伝えることを身に付けられるようにしている。

メニューに旬の食材等を採り入れ、子どもの状態に応じた食事の提供と援助に努めている

献立は旬の食材を用いた和食を中心としつつ、中華・洋食などを採り入れるほか、季節や行事にちなんだメニューも織り交ぜている。また喫食状況は給食会議等で、職員間で共有し、調理・援助の改善につなげている。乳児の手掴み食では、こぼしながらも自分で食べようとする姿を、保育者は見守りつつ必要な援助を行い、年齢・発達によって食具を準備して選べる環境を整えている。食物アレルギーを持つ子どもへの対応では専用のトレーを用いたり、テーブルを分けたりするほか、提供までの各段階で複数職員による確認を行うなど、誤食防止に努めている。

子どもの食材や食事への関心を高め、知識を伝える食育活動を行っている

ピーマンやオクラ等の夏野菜の栽培では、水やりや観察、収穫を楽しんでいる。乳児からそら豆の鞘取り・トウモロコシの皮むき・キャベツちぎりなどを行い、バナナスムージー作りでは袋の上から握ったり、潰したりするなどの食材に触れる体験のほか、野菜スタンプも楽しんでおり、活動への導入は絵本などを用いて行っている。幼児クラスでは、サンドウィッチの型抜きのほか、年長児はカレー作りに取り組んでおり、野菜の買い出しや調理器具を体験している。また食の知識として、朝食や手洗いの大切さ、食材の栄養素と身体や健康の関係などを伝えている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子どもたちが清潔や健康を意識した生活を過ごせるように支援している

日頃から生活の場面ごとで手洗いに取り組んでおり、個別に声をかけたり、手洗いの歌や手順を示したイラストを各所に掲示したりして自然と習慣づくように支援している。また看護師から絵本を用いてばい菌の話や手洗いの大切さなどを知らせている。園生活において、汗をかいたり、喉が渇いたりした時には適宜、水分補給を行えるようにするほか、季節に合わせて上着を着たり、衣服の調整をするなど、自分の健康を意識できるようにもしている。避難訓練の際には防災頭巾を被ったり、避難用の上履きを履いたりして、職員の指示に従って避難したりしている。

子どもが危険を回避できるような促しと、嘱託医等との連携による健康管理を行っている

隣接する公園に出る時には遊ぶ時の約束ごとを、散歩の際には手のつなぎ方や前を向いて歩くこと、道路の渡り方などをそれぞれ伝えるほか、視覚的に内容がわかるようなカードを用いて伝えたり、室内のスペースに掲示したりして、子ども自身が危険の回避やルールを守ることを意識できるよう促している。嘱託医の健康診断や歯科検診を実施し、結果の記録・管理を行うとともに、保護者には連絡アプリで結果を知らせたり、必要に応じて病院受診を依頼している。また嘱託医との健診時や随時の相談体制を整えるほか、近隣の医療機関との連携にも備えている。

保護者に対して、感染防止や健康管理などに役立つ情報を提供している

入園時に生活リズムの大切さや子どもの健康管理などに関するお願いごとなどを知らせている。また定期的に発行する保健便りでは、家庭で役立つ保健・安全及び子どもの健康管理やケアなどのほか、季節ごとの感染症の留意点や予防方法などを知らせている。園内で感染症が発生した際には、玄関フロアでの掲示と連絡アプリでの配信により、保護者への速やかな周知と注意喚起を行っている。日々の子どもの健康状態は保護者から聴き取るとともに、日中の体調変化やケガ等の際には看護師と連携しながら必要な対処やケアを行っている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者のさまざまな事情や状況を受容しつつ、育児と就労の両立の支援にも努めている

保護者の子育てや就労等の個々の事情は、入園時とその後の個人面談、送迎時のコミュニケーションや連絡帳のやり取りなどで把握しており、さまざまな状況を受容しつつ、園として可能な配慮や支援に努めている。また20時までの延長保育の実施と、家庭での夕食に影響のない程度の補食の提供しており、各家庭の状況に合わせてスポットでの利用を可能としている。さらに連絡アプリでの保護者との連携や各便りの配信、食事前エプロンや口拭きタオル等の園での準備・提供など、利便性の向上や負担軽減に配慮するなど、育児と就労の両立支援にも努めている。

子どもの育ちや発達、各活動の内容など、さまざまな機会に保護者に説明している

保護者会では、子どもたちの一年間の育ちや、食事・遊び・表現・異年齢での関わりなどの様子について、写真を用いて保護者に説明している。進級に向け、次年度の目標や予想される子どもの姿、持ち物やお願い事項などを伝えるほか、1歳児から2歳児の進級の際にはフロアが変わるため、保護者会だけでなく、個人面談や日頃の会話などでも説明するとともに、進級後もお迎え時にしっかりとその子のエピソードを話すなどして保護者の不安解消に努めている。また保護者面談では教育の5領域を押さえながら子どもの姿を伝える工夫もなされている。

保護者の行事への参加を促し、成長を共有しつつ、保護者同士の交流にもつなげている

年間行事予定の配付と開催前の案内などを行い、保護者が見通しを持って行事に参加しやすいよう配慮しており、「きらめき祭り」や「もりんぴく(運動会)」等の参加の際に子どもの様子を見てもらうとともに、親子や各家庭、職員と保護者との関わりが持てる機会となっている。今年度は親子パン教室を開催し、講師の方に作り方を教えてもらいながら親子で作っており、各家庭同士の会話や交流にもつながっている。また「乳児の親子ふれあい保育」や「ふれあい保育」では、保護者と一緒に体験したり、子どもたちの活動や食事等の内容を説明している。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

子どもが身近な人との関わりを持ったり、さまざまな体験ができるように工夫している

隣接する公園で身体を動かし、虫・植物等を探索して遊んだり、地域の方と挨拶を交わすほか、園周辺の工場でフォークリフトを見たり、食育の際にスーパーマーケットまで歩いて、グループごとに目的に合わせて買い物をするといった経験が得られている。中学生の職場体験を受け入れたり、講師を招いて親子のパン作りを行ったりするほか、駅前の高齢者施設とは、感染症の流行のため今年度の交流はできなかったが、ハロウィンの際に衣装を着て園に出かけ、ダンスを披露したりしている。さらに法人のバスを利用し、幼児を中心として遠足にも出かけている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	職員がより働きやすい職場環境づくりを目指し、さまざまな業務の見直しに注力している	
内容①	現場の業務負担を軽減し、職員がより働きやすい職場環境とする取組に注力している。行事の装飾・小道具や各室の手作り玩具など、負担増の要因となりがちな、種々の作製物の削減にかねて取り組むほか、今年度は運動会「もりんびっく」を3歳以上児のみとし、0～2歳児には代替の機会を設けて経験の保障を図っている。またその他の行事でも、複数クラス合同の実施を適宜の分散形態に改めるなど、さまざまな見直しを行っている。一連の取組は主任の主導のもとで現場が検討し、担当チームとして「業務改善委員会」も設けるなど、組織的に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	さまざまな保育の研鑽の機会を設け、職員同士で語り合い、学び合っている	
内容②	法人内での各園での保育を見合う「誉める保育研修」を通じて、互いの良さと課題を明確にし、保育を高め合う機会とするとともに、他園の環境設定や意図、子どもへの対応や保育の工夫などを教えてもらい、それを自園の保育にも反映させることも行っている。また法人の主任会が主催した保育研修では、3年目までの職員を対象として、保育で大切にしている「誉める」「認める」「感謝」などを説明し、動画を見て考えたり討議を行ったりして理解を深めるほか、3年目以降の職員にも環境設定や主体性について他園の職員と話し合う機会を設けている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	コロナ感染症の5類への移行に伴い、行事の再開や見直しなどを行っている	
内容③	コロナ感染症の5類への移行に伴い、行事の再開や見直しなどを行っている。「きらめき祭り」はコーナーごとでスタンブラー形式で回り、皆で夏ならではの体験を行うほか、「もりんびっく」(運動会)では親子競技や大人対抗競技を設け、保護者と職員がともに楽しみ、関係を深める機会を設けている。また個人面談は夏の休みが取りやすい時期に設定し、聴き取った内容で重要な内容を組織内で共有するなどして園全体の見守りや配慮につなげている。その他、今年度は講師を招き、5歳児の親子パン作りを行い、親子で楽しみながら思い出づくりとしている。	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	生活と遊びを通じて、子どもたちの主体性や意思の尊重に努めている
	内容	生活と遊びを通じて、子どもたちの意思を尊重している。子どもが自ら遊びを見つけて満足するまで取り組めるよう、自由な活動を行える時間を確保しており、子どもたちが室内のコーナーを自由に行き来することができるようにしている。集団活動を実施する際にも、興味を持って主体的に取り組めるよう、導入や誘いかけを工夫し、参加が難しい場合には、時間を空けたり、場面を変えたりするなど、子どもたちの体験を保障できるよう援助している。また食事は所定の時間内であれば、子どもたちが自分で食べたい時間に食べることができるようにしている。
2	タイトル	日常的な異年齢での保育では子どもたちが互いに育ち合い、豊かな心情が育まれている
	内容	0・1歳児、2歳以上児が2つのフロアで、生活と遊びをともにしている。年上児の姿を見ながら、遊びをまねてみたり、年下児に教えようとしたりするなど、互いに刺激し合って過ごし、お世話したり、頼られたりすることを通じて、豊かな心の成長も育まれている。異年齢の関わりでは時に、言葉の理解や人との関わり方の違いから、年上児の遊びを年下児が壊してしまうことがあり、保育者は双方の気持ちに寄り添って代弁するとともに、年上児が譲る姿を誉めつつも、我慢すぎないよう、年上児の遊びや思いの保障にも心を配るようにしている。
3	タイトル	子どもたちの感性を育み、創造力や表現力を培う活動を行っている
	内容	子どもたちの感性を育み、創造力や表現力を培う活動を行っている。室内でリズム表現を通じて身体を動かすほか、楽器に触れたり、自由に音楽を流してダンスを楽しんだりできるようにしている。また講師によるオペレッタや、季節をテーマにした制作活動、行事の際の共同制作などに取り組み、今年度より英語の活動を採り入れて、ゲームやダンス、簡単な会話などを通じて英語への親しみや、発音してみることの楽しさを感じられるようにしている。ハロウィンでの仮装や日々のごっこ遊びなど、なりきりや見立て・再現を楽しむ遊びも行っている。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	新入園児を含めて保育や育ちの見通しを伝えるための機会設定や伝わりやすくするための工夫など、今後の取組に期待したい
	内容	保護者会では写真を用いて子どもの一年間の育ちや生活・遊びの様子を伝えたり、進級に向けて次年度の目標や予想される子どもの姿、持ち物やお願い事項を説明している。また特にフロアが変わる1歳児から2歳児の進級の際には個別の説明とともに、進級後のお迎え時の子どもの様子の報告を意識するなどして、保護者の不安解消に努めている。これらの保護者に育ちを伝える工夫をしているものの、利用者調査の結果からはさらに向上の余地が見られたため、新入園児を含めて保育や育ちの見通しを伝えるための機会設定など、今後の工夫に期待したい。
2	タイトル	毎年度の各職員の自己評価を、継続的・計画的な成長支援に役立てるためのさらなる工夫が期待される
	内容	常勤者には法人策定の「振り返りシート」による自己評価と、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行っている。評価や進捗・達成を、園長との面談によって各人と確認・共有する仕組みも設けているが、年1回の実施のため、各人の意識の継続や、年度間の育成の継続性にはさらなる工夫の余地も見受けられる。面談自体は各人に対して年間複数回行っており、それらの機会を活かし、目標や研鑽の進捗を期中にも確認し、適宜の助言や啓発を行うなど、より計画的・効果的な成長支援の仕組みとする配慮も一考されたい。
3	タイトル	認識されている当園固有の諸課題に、中・長期的に取り組んでゆくための計画の仕組みの整備を期待したい
	内容	中・長期的な課題解決や事業推進を主眼に置いた計画は、法人全体に関するものが作成されている。園単位としては文書化されていないが、体制の充実と安定化、各職員のライフステージの変化を見すえた中堅層のリーダー層への育成や、「誉める」ことを大切にする保育をはじめ、園・法人の目指す保育のあり方へのさらなる共通理解など、当園固有の課題も認識されている。今後の経営層の世代交代も念頭に、新年度以降の新たな体制のもとでこれらを整理し、計画化と年度の事業計画への反映により、組織全体で取り組んでゆくことを期待したい。